

いしかわっ子アルバム 1

(9月)

PTA活動 (草取り・室内清掃)

9/13 (日) のべ130名が参加

保護者の皆様から、草取りやフィルター清掃を中心に頑張ってくださいました。月末の運動会に向け、環境も整ってきました。本当にありがとうございました。



保護者・家族の皆さんに感謝 子どもたちも活躍

学習参観・学年懇談会 9/9 (水)

今年度、初の学習参観でした(のべ248名の参加)。お子さんの様子はいかがだったでしょうか。個でしっかりと考え、仲間と関わりながら、自分の思いを表出することが大事です。「主体的・対話的で深い学び」をこれからも目指していきます。



学年懇談会に参加いただいた皆さんも本当にありがとうございました。全学年でのべ114名の参加がありました。

それぞれの学年の子どもたちの成長のために建設的な意見を出し合うなど、大変有意義な時間となりました。

【東大生をもつ親の質問テクに学ぶ】

『東大思考』という本を書いた著者の紹介文から抜粋し、まとめました。大学進学や本の購入をすすめているわけではありません。ご了承ください。

質問テクニック1: 決して答えを押しつけない・・・例えば、「どうして勉強しないの!」と、なかば叱るのと同じ勢いで聞いてしまえば、たとえ親が質問しているつもりだったとしても、子どもからしたら「親から勉強しろと口うるさく言われた」と同じに感じてしまう。それで勉強しても、自分で考えるなんてことはせず、「親から叱られるから仕方なく勉強している」ことになってしまう。「大切なのは『子どもの意見をしっかりと聞く』という姿勢を忘れないことだ」と、ある東大生の親御さんは語る。「答えありきで質問するのではなく、『自分は本当に、君の考えが聞きたいんだよ』という姿勢を徹底することで、自然と子どもはこちらに考えを表明してくれるようになる。こういうとき、「馬鹿なこと言ってんじゃない!」と怒ることは簡単だが、東大生の親御さんはそうではなく、これに対しても「質問」をする人が多かった。

質問テクニック2: 選択肢を提示する・・・多くの場合、本当に自分で考えて行動できるようになるためには時間がかかるし、質問しても「うーん」と考え込んでしまう場合がある。そんなときには、考えるための足がかりとして、選択肢を用意してあげることが大事だと言う。例えば小学生に「どんな中学に入学したらいいと思う?」と聞いても、答えに窮してしまう子は多い。そんな時には、「こんな中学とか、こんな中学があるけれど、どちらの中学が自分に合っていると思う?」というように、選択肢を設けて選ばせるのだ。人間は、どんな答えもありうるオープンな質問よりも、答えの種類が決まっているクローズな質問の方が回答しやすい。そこから「どうしてその選択肢を選んだの?」と聞くことで、自分の考えをより深めることができるようになる。もちろん選択肢を提示するのは親なので、本当の意味で子どもが主体的にその選択をしたことにはならないかもしれないが、それでも「自分で選んだ」と「答えを押しつけられた」とのでは天と地ほどの差がある。「自分で選んだ」という意識がある事柄のほうが、人間は本腰を入れて、責任を持って取り組めるはず。選択肢を設けて考えさせるのは、子どもが自分で考えるための重要な足がかりになる。